

# 虫展

養老孟司と

小檜山賢二



YORO & KOHIYAMA "MUSHI-TEN"



▲大好きな標本の話に花を咲かせるお二人



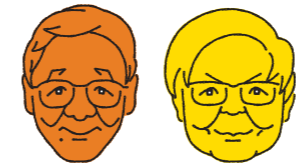
ロクロクビ  
オトシフミ

くびがなが  
その名もろくろくび!

## 昆虫は感性を刺激するアート 見えないものを見る「虫展」

開催 7/13(土)~8/25(日) 会場 大分県立美術館 1階 展示室A

解剖学者の養老孟司さんは、「お金にならない本気の仕事」と語るほどの昆虫愛好家としても有名。そんな養老先生の言葉と、小檜山賢二さんの深度合成写真とでお届けする「虫展」が、まもなく始まります。その見どころを、養老先生にお伺いしました。



みて、かんじて、  
そしてかんがえよう

——養老先生は幼少期から昆虫に興味をもち、小学4年生から標本づくりを始めたそうですね。今も昆虫に惹かれ続ける理由は？

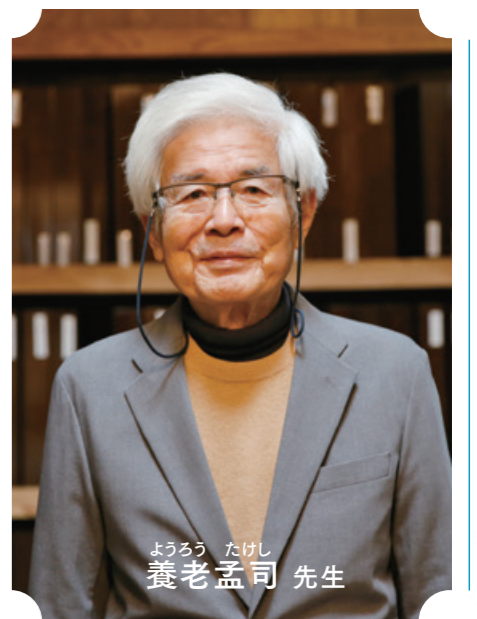
どうして虫が好きになったのか、理由は全く分らないんです。ただ面白くて、今も虫を探す時は子どもの頃の気持ちに戻ります。以前、あるテレビ番組で虫採りに行ったのですが、その放送を見た母から「子どもの時と同じ顔をしているから安心した」と言われたことがありますね。自然に関心をもつと心身ともに調子が良いし、標本づくりは手先を上手に使わなければなりませんから、いい運動にもなるんです。

——そんな養老先生と小檜山賢二先生の世界観に触れられる「虫展」。その見どころを教えてください。

生の写真を3D化する試みなどデジタル技術の面白さも醍醐味ですね。

拡大して細部まで見てみると、虫のよく出来た構造に本当に驚かされますよ。それから、デザイナーの方々も参考にしているほどの色や形の面白さも見どころです。例えばインカの織物が南米にいる虫の身体の模様と似た柄になっているのは、現地の人が意図せずその影響を受けているからなんです。僕が皆さんに考えてみてほしいのは、こうした虫の構造や美しさに触れて「人間はなぜ驚くんだろう」ということ。それは「感性」があるからなんです。展覧会を見て自分が何を感じるのか？ どのようなものに感じるのか？「キレイだ」でも

### SPECIAL INTERVIEW



ようろう たけし  
養老孟司 先生

何といっても小檜山さんの昆虫の写真でしょう。今から30年ほど前、初めて彼の作品を見た時はびっくりしました。なぜかって、通常、虫を顕微鏡で見る時には全体にピン트가合わないのに、絶えず虫を動かしながら見ます。虫を1000



オオゾウムシ

写真が  
すごい!

鼻が  
ゾウっばい!?



マルバネトビケラ

——展覧会のテーマにも「みて、かんじて、かんがえよう」とあります。

「気味が悪い」でも、何と感じても良いので、虫を通して自分の心の動きに目を向けてみてください。

SNSやチャットGPTが普及する現代社会では、感性よりも言葉が先行しています。例えば僕はよくインタビューを受けますが、もしもインタビュアーがAIだったら？ 社会がどう変化するか必ず聞いてくるでしょうね。だけど、社会が全く変化しなくても、自分が

——今回の展覧会は、小檜山先

そんなものを見たことがなかったから「これって何だろう。その通りなんだけどもあり得ない」と目を疑ったんです。実際の世界にはないものだけども嘘をついている訳でもない。頭の中で概念を整理するのに困りました。その後、落合陽さんが『デジタルネイチャー』という本を書かれて、この言葉を使えばしっくりくると納得しました。自然界では見えないものをデジタル化すると、全体を見ることができると同じように、皆さんもきっと僕と同じように、新しい世界に感動すると思います。

ハリネズミ  
トゲハムシ

トゲトゲが  
ハリネズミ  
みたい!

# II 2024 コレクション展 II

## 水の情景 一生々流転

**会期** 6/7(金)~7/18(木)  
 前期...6/7(金)~7/2(火)  
 後期...7/4(木)~7/18(木)  
 休展日 7/3(水)は展示替えのため休展

**会場** 大分県立美術館 3階 コレクション展示室

### みどころ1 日本画家・岩澤重夫の 溪谷と滝をモチーフとした作品を一堂に展観

故郷の水郷・日田、何度も訪れた耶馬溪の溪谷、さらに全国の滝をスケッチして、数多くの作品を残しています。細密な筆触を重ねながら、時に激しく、時に静かに、自然の息吹、壮大さの魅力を力強く描き出しています。



岩澤重夫《天響水心》1990年(寄託品)

### みどころ2 浮世絵にみる水辺の風景

今でも暑くなると、子供たちは水遊びが大好きですね。水辺の風景や四季の移り変わり、清涼感と穏やかな暮らしの様子を描いた浮世絵もご紹介します。



溪斎英泉《子どもの川遊び》文政一・天明期

ギャラリートーク 7/7(日)、15(月・祝) 各日14:00~15:00 ※予約不要・要展覧会観覧券

**開催時間**：10:00~19:00、金・土曜~20:00(入場は閉館の30分前まで)  
**観覧料**：一般300(250)円、大学・高校生200(150)円 ※( )内は有料入場20名以上の団体料金 ※中学生以下は無料 ※大分県芸術文化友の会 びびKOTOBUKI無料、TAKASAGO無料、UME団体料金 ※高校生は土曜日に観覧する場合は無料 ※県内の小学・中学・高校生(これらに準ずる者を含む)とその引率者が教育課程に基づく教育活動として観覧する場合は無料 ※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をご提示の方とその付添者(1名)は無料 ※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください ※開催中の企画展半券提示で1枚につき1回無料 **お問合せ**：大分県立美術館 Tel.097-533-4500

同時開催の企画展

没後50年 福田平八郎 5/18(土)~7/15(月・祝)3階 展示室B

本展は、同時開催の企画展「没後50年 福田平八郎」にあわせて、福田作品の主要なモチーフである「水」に着目し、「水の情景一生々流転」と題して大分県立美術館の所蔵品をご紹介しますコレクション展です。

私たちを取り巻く自然や暮らしに欠かすことの出来ない「水」は、空から山野に雨として降り注ぎ、山々の溪谷を下り、川や湖などを巡りながら、やがて大河となって海へと広がっていきます。この変化し移り行く「水」は私たちの日々の生活に恵みをもたらし、人々の心に潤いをもたらすとともに、古くから多くの作家に着想を与えています。

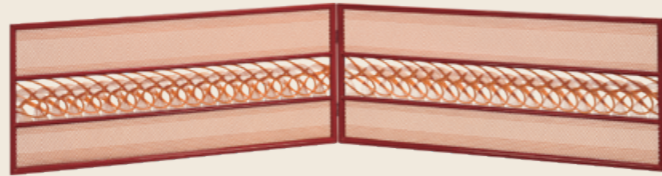
常に形をかえ、とどまることのない「水」の姿に、芸術家たちは万物の移り変わりを見、壮大な自然観やそれぞれの人生観を独自の形や色、技で表現してきました。

静かに降る雨、轟音とともに落ちる滝、ゆったりと流れる川、波しぶきをあげる海...

鋭い観察眼によって、ほかにはない独自の「水」を探求する、その多様な表現を時代の流れやジャンルによる印象の変化とともにお楽しみください。

### みどころ3 竹工芸ならではの多様な表現

生野祥雲斎《竹組 波 風炉先屏風》は素材や材料の特質を生かした多様な表現が魅力です。曲線の美しさやエネルギー、美しい色彩、竹工芸ならではのしなやかさ、繊細さを生かした「波」をご覧ください。



生野祥雲斎《竹組 波 風炉先屏風》1954年(後期展示)

Water Scenes - All things are constantly changing

# 虫展.

「あんまり虫を馬鹿にしないで! ということでしょうか。」虫ケラ”とか”虫も好かない”とか言ってる私たちはネガティブな扱われ方をしますが、ちゃんと主体性をもった生き物ですから。そもそも、虫に興味がない人にとっては虫が存在しないのも同じですけど、興味があると毎日すごく気になって、虫

——展覧会を通じて伝えたいことは?

変われば世界は変わって見えるんです。だから、感性が先なのです。美術館や博物館の役割は、言葉の前に感性の大切さを示すことだと思います。



大分市内を散策してみると意外にビルが多くて、虫の棲家が減っていますね。今回の展覧会でもお話しに伺いますから、その際はぜひまた山に虫採りに行きたいものです。大分でも絶滅危惧種が増えていると聞いています。大分昆虫同好会の皆さんが大分県の昆虫を紹介するコーナーもあります。

## 養老孟司と小檜山賢二「虫展」

~みて、かんじて、そしてかんがえよう

**開催時間**：10:00~19:00、金・土曜~20:00(入場は閉館の30分前まで)  
**観覧料**：一般1,200(1,000)円、大学・高校生1,000(800)円 ※中学生以下無料 ※( )内は前売りおよび有料入場20名以上の団体料金 ※大分県芸術文化友の会びびKOTOBUKI無料(同伴者1名半額)、TAKASAGO無料、UME団体料金 ※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をご提示の方とその付添者1名は無料 ※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください。 ※本展会期中に限り、本展の半券提示でコレクション展を1回無料でご覧いただけます。 **お問合せ**：大分県立美術館 Tel.097-533-4500

### 関連イベント

#### 7/13(土) 14:00~15:30 小檜山賢二先生講演会 「デジタルで虫と遊ぶ」

**定員 80名** 講師：小檜山 賢二氏  
 会場：大分県立美術館 2階 研修室

本展監修者の小檜山先生から昆虫写真の見どころについて教えていただきます。

要事前申込  
 要展覧会観覧券

#### 7/20(土) 14:00~15:30 養老孟司先生×小檜山賢二先生 対談「虫と遊ぼう」

**定員 150名** 講師：養老 孟司氏、小檜山 賢二氏  
 会場：大分県立美術館 3階 展示室B

本展監修者であり、大の昆虫好きでもある2人の先生に昆虫の魅力について語っていただきます。

要事前申込  
 要展覧会観覧券

#### 8/3(土) 14:00~15:30 講演会「大分の昆虫と自然」

**定員 80名** 講師：三宅 武氏(大分昆虫同好会名誉会員)  
 会場：大分県立美術館 2階 研修室

要事前申込  
 要展覧会観覧券

各イベントのお申し込みは当館ホームページの申込フォームから受け付けます。(先着順、定員に達し次第締切)

ゾウカブト



を通して見える世界が変わってきます。最近、気候変動による自然環境の変化にも気づかされています。この春は寒暖の差が激しかったので、虫が出てくるのが遅かったですね。相対的に虫の数は減っていますから、たとえば捕食者の鳥も減るかもしれません。

——過去に何度も来県して下さっていますが、大分県の印象は?

——最後に、展覧会を楽しみにしている皆さんにメッセージをお願いします。

虫をよく見て、本気で何かを感じてくれたら嬉しいです。特に子どもさんは朝から晩まで見ているも飽きないでしょうね。僕も昔は親に「虫ばかり見ていないで勉強しなさい」なんて言われたのですが、お子さんの幸せを、どうか大人が咎めたり邪魔したりしないであげてほしいですね。